

令和2年度第3回社会教育委員の会議 議事録

令和2年度第3回清瀬市社会教育委員の会議が令和2年8月31日に開催された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和2年8月31日（月）午後3時～5時
- 2 会 場 生涯学習センター/講座室1
- 3 議 長 高井正委員（議長）
- 4 出席委員 島澤良次委員（副議長）、田中金子委員、齊藤しのぶ委員、西田由美子委員、菊地俊一委員
- 5 事務局 坂田篤（教育長）、綾乃扶子（生涯学習スポーツ課長）、岡部剛（生涯学習係長）、若林幹輝（生涯学習係主事）

1 開会

高井議長：第3回社会教育委員の会議の開会を宣言

事務局：資料の確認

2 議題

（1）成人記念式典について

① 今年度の運営について

（事務局）

～成人式について資料を元に説明～

現在、新型コロナウイルスが感染拡大している状況ではあるが、式典を3部に分割する等の様々な工夫をしながら、可能な限り令和3年1月10日（日）に清瀬けやきホールで成人記念式典を開催する方向で検討している。開催方法は例年1部で実施していたが、新型コロナウイルスの影響により、安全に配慮し三密状態となるリスクを避けるため、学区ごとに3部に分けての実施を考えている。内容については、二十歳の抱負発表者、司会者、アトラクション、来賓招待については、中止を含め検討中である。実際に集まることができない場合に備えて、式典部分は映像収録とすることも検討。また、新型コロナウイルスの感染拡大で会場での開催が難しい場合、映像のみ

の配信などを視野に入れ検討している。

(高井議長)

コロナ対策として密を避けるために学校単位に3部制となり、アトラクションの削除等時間を短縮し実施するとの事務局からの説明でした。

このことについて質問はあるか。

(齊藤委員)

コロナウイルスに対してけやきホールの定員制限などの対応はどのようになっているか。

(事務局)

定員は508名。現在は3/1の150名を上限で運営している。

(事務局)

補足ですが、けやきホールの定員は508名なのに対して、市のコロナ対策における基準は半分の250名までとしている。

(高井議長)

成人式の通知はどのような方法で行うか。

(事務局)

ハガキで通知予定。

(田中委員)

この前けやきホールを使用しようとしたが、密を避けるために利用を控えた。舞台上の人数などについてはスタッフと話し合っているか。

(事務局)

舞台スタッフと事前に細かく打合せを行っている。

(高井議長)

来賓もいないため、舞台の人数も少ないと思うので、あまり問題はないと思う。映像がメインになっていくと思うが、現在どのような状況か。

(事務局)

十文字学園女子大学のメディアコミュニケーション学科のゼミ生と連携しながら撮影準備をしている。

(高井議長)

音声聞きづらい部分があったので、ピンマイクを使用するなど、今年度は考慮して欲しいと思う。また、新型コロナウイルスの影響で実際に式典に集まることが出来ない場合は、きちんと市長のメッセージ等を取って配信して欲しいと思う。

(坂田教育長)

3部に分けることで、運営側の労力が3倍になるので、そのことについて社会教育委員としてどうお考えであるか。

(西田委員)

長時間となり大変かと思う。また、ボランティアを募るのもよいと思うが、結果的に人数が多すぎて密になってしまうなどの懸念がある。

(齊藤委員)

去年、学校支援本部コーディネーターに本部の活動をアピールするため、参加してもらった。今年も声を掛ければ参加してもらえらると思う。

(西田委員)

通常はどの程度の人数で運営しているのか。

(事務局)

26名程。内訳は生涯学習スポーツ課10名 教育委員会16名

(高井議長)

青少年委員などはお願ひできるのか。

(坂田教育長)

活用できると思う。清瀬のネットワークを最大限に活かしたい。

(齊藤委員)

第2中学校の「プレミアムボランティア」で学生のボランティア活動をしているので、声をかけることが出来る。

(坂田教育長)

十文字学園女子大学・武蔵野大学など他大学と教育委員会は協定を結んでいる。協定内容には含まれてはいないが声をかけることは出来る。

(高井議長)

司会はどうするのか。事務局が行うのか、色々まだ検討することはたくさんある。

(坂田教育長)

映像のみで成人式を行うと、新成人が騒いでしまったり色々と歯止めが利かなくなる可能性がある。

(高井議長)

両方対応できるようにしておくべきである。(映像のみ、映像+来客)

(島澤副議長)

3回行うのは良い面と悪い面があり、入退場の出入りの動線の事などを考える必要がある。他の市では式典を分けているみたいなので、なるべく少ない人数で出来る事が良い。新成人が滞留する事は避けたい。

(坂田教育長)

今の学生のモラルに期待したいが、事務局の働きかけも重要。大声を出すのが難しい状況なので、プラカードなど工夫した準備が必要かもしれない。

(高井議長)

過去の経験で、武道館で成人式を行った時は虎ロープを利用して追い出しをしていた。

(事務局)

入口と出口を完全に分離し、動線を分ける運営を考えている。

(齊藤委員)

消毒作業はどのようにするのか。

(事務局)

ホール内の椅子の手すりや背もたれなどを職員で消毒作業を行う予定。

(坂田教育長)

検温はするのか。

(事務局)

人数的に個別に検温するのは現実的ではない。先週けやきホールへ訪問した際、指定管理者が大型モニター状のサーモグラフィを設置していた。体温が37.5度以上の場合は警告音が鳴る仕組みであり、それを利用する予定である。

(高井議長)

いつまでに結論を出す予定か。

(事務局)

10月にはハガキ通知を出す予定のため、それ以前までには決める予定である。

(坂田教育長)

3部制にする事、若いボランティアの活用をする事、そして、まずは対面で成人式の運営を迫及していく方向で社会教育委員の総意でよろしいか。また、感染症対策は行政として問われる部分であり、あらゆるシミュレーションを行う必要があると考えている。

異議なし。

(島澤副議長)

受付で持参したハガキを回収することは例年ないため心配な部分がある。

(坂田教育長)

ハガキを受け取る時に密になる可能性がある。レイアウト、人数をしっかりとシミュレーションし、委員の皆さまに見て頂く必要がある。

(高井議長)

保護者の対応はどのように考えているか。

(事務局)

例年のように保護者用のモニタールームを設けることは考えていない。

(高井議長)

例えば、密になっている状況を放っておいたりすると、市民の目はとても厳しくなっているので注意が必要。日本全国の1,800の自治体が比較検討されるので、しっかりとシミュレーションを行い、安全に運営してもらいたい。また、若いボランティアの活用も進めたい。

(2) 2023年成人年齢引き下げについて

(事務局)

～成人年齢引き下げについて資料を元に説明～

2022年4月に、成人年齢改正の法律が施行となり、2023年1月の成人式が成人年齢引き下げ後の最初の成人記念式典である。

2022年に成人年齢が18歳に引き下げられた後、どの年齢を対象に成人式を行うかという問題について、今まで、①従来通り20歳を対象として行う、②18歳を対象として行う、③2022年4月については18歳から20歳を合同で行う、などの案がある中で、国や他自治体の動向を鑑みながら検討を行ってきた。

清瀬市の考え方としては、従来とおり20歳を対象のままとして、「二十歳のお祝い」という形で式典を実施していきたいと考えている。

決定については以下の3点を根拠とした。

(根拠)

- ① 新成人へのアンケート
- ② 法務省「成人式の時期や在り方等に関する分科会」の報告結果
- ③ 他市の動向

昨年の成人式当日のアンケート結果としては、20歳のまま成人式を行いたいとする人が80名、18歳が良いとの意見が3名であった。

法務省の成人式の時期や在り方等に関する分科会の資料説明・他市の状況でもほとんどが20歳となっている。先日、近隣5市の会議が開催され、この件について意見交換を行った。全ての自治体が、対象は20歳のままとする方向で検討し、今後決定に向けて動いていく段階であるとのことであった。

小平市については、8月上旬に既に公表していた。

次に、20歳で行う場合の名称についてご意見を下さい。

(齊藤委員)

20歳のままで良いと思う。

(西田委員)

20歳のままで良いと思う。

(島澤副議長)

20歳のままで良いと思う。 名称は「20歳のつどい」がよい。

(高井議長)

それでは、20歳の開催とすることによろしいか。

名称については、「20歳のつどい」が良いとの意見が多いが、最終決定は市で決めていただければと思う。

異議なし。

(高井議長)

20歳の人がどのような名称を求めているか少し気になるところである。

(坂田教育長)

成人となる18歳に向けてはどのような対応をすれば良いか、なにか意見はあるか。

(西田委員)

何もないよりは何かしてあげた方が良いと思う。

(齊藤委員)

高校3年生なので、社会に出る人、大学に進学する人、それぞれの進路決定時期であるので、市からのメッセージを送ってもよいのではないかと。啓発など責任を持ってもらうことが出来るような何かが出来ればよいと思う。

(坂田教育長)

他市の状況はどうか。

(事務局)

成人になると契約行為を親の同意なしに出来るため、それに関する啓発資料を送る市もある。

(坂田教育長)

2023年まで時間があるので、今後検討していく必要がある。

(高井議長)

18歳に対する対応については、引き続き議論していくこととする。他市の状況を見ながら詰めていきたいと思う。

(3) 清瀬市生涯学習方針の策定について

(高井議長)

方針を考える前に「東京コンファレンス」についてパワーポイントを利用して説明させていただきたい。

- ・社会教育における持続可能性について。
- ・社会教育で何ができるか。
- ・オリパラと社会教育
- ・防災と社会教育
- ・子ども・若者と社会教育
- ・少子高齢化と社会教育

などの意見交換会を行っている。

社会教育の枠組みを変える、育み合うというキーワードが出てきている。

学びのクリエイターとして検索してもらおうと10分バージョンと20分バージョンの映像があるので、ぜひご覧下さい。

また、生涯学習支援論を大学で教えており、生涯学習方針を考える前提として聞いていただきたい。

キーワード

- ① 人生100年時代 マルチステージ化
- ② Society5.0 IoT ビックデータの活用
- ③ VUCA
- ④ レジリエンス
- ⑤ ネガティブ・ケイパビリティ：答えのないものに耐える力
- ⑥ 新型コロナウイルスと共に生きる時代

これは、表現の話であるが、今後、フィジカルディスタンスという言葉を使い
たい。ソーシャルディスタンスの本来の意味は社会的距離であり、これは逆に近くな
らなくてはならない。

はっきりしない時代をどう生きるか、地域の力をどう活用するか、人づくり、つな
がりづくり、まちづくりが重要である。

今後、生涯学習基本方針案について

(高井議長)

欠席された松山委員からのメッセージについて事務局で説明して下さい。

(事務局)

～資料を元に説明～

(高井議長)

生涯学習案について、前回との変更点を説明して下さい。

(事務局)

第3章の方向性について説明いたします。

前回は、実行計画になるほど細かい記載が多くあったため、修正しました。

- ① 人生100年時代を見据えた学習機会の提供
- ② SDGsの目標を意識した学習機会の提供
- ③ リカレント教育の充実
- ④ 誰もが学べる場所と学習情報・相談機会の創出
- ⑤ 学校と地域の連携
- ⑥ 市内関係部局、市内大学、企業、NPOと協働した生涯学習の推進
- ⑦ 清瀬らしさを生かした学びの実践

にまとめました。

(高井議長)

これについてご意見はあるか。

(齊藤委員)

主な取り組みについて記載があるが、数年後に評価する仕組みが必要であるのでは
ないだろうか。

(高井議長)

方向性なのでどこまで記載するかは検討する必要がある。

(坂田教育長)

事務局側として意見を言うのはおかしいが、一番目の人生100年時代～が全体を包括しており、レベルの整備が必要ではないだろうか。

SDGsの取組みがアクティブラーニングなのか。

実現可能性があるかどうかは指標の一つである。

(菊地委員)

主な取り組みについて、具体的なものを持っていた方がよい。具体的に誰がどの程度行うのか、メモ程度に持っておきたい。

「清瀬らしさ」はキーワードとして重要である。

今ある清瀬らしさとこれからの清瀬らしさがあっても良いのではないか。

(高井議長)

キーワードがのっているので、レベルを整理してまとめて行くと良い。

清瀬らしさを創っていくということは大変参考になった。

全部を行政が行うのか、自治体がやるべきものはどこまでかをしっかりと踏まえた上で検討する必要がある。

環境を整備するのが行政、活用するのは市民である。市民が取り組むべきこと、役所が取り組むべきことを明確にする必要がある。

(西田委員)

全体的に現状・課題・方向性がつながっておらず、点となってしまう印象を受けた。

(高井議長)

各々の繋がりを意識して書いた方が良い。また、方向性についてレベルを整理した方が良い。

今持っている行政の力を生かすことを明記することで、より実現可能性が高まる。

3 その他

報告

(報告1) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会

(島澤副議長)

西東京市が幹事市である。

令和3年度は関東甲信越静の大会は東京大会となっている。

東京大会とブロック研修会は共催した方が良いとの意見と、両者はレベルが違うので共催は難しいという両方の意見があった。

4 閉会

次回 令和2年度第4回社会教育委員の会議 10月26日(月) 午後3時～5時

以上